

治験推進部レター

Letter of Division of Clinical Research of New Drugs and Therapeutics, Center for Innovative Clinical Medicine, Okayama University Hospital

治験同意取得上位者 表彰式

2020年7月17日、病院長室にて2019年度の同意取得件数上位3名の医師の表彰式が行われました。
今年新型コロナウイルス拡大防止のため対象医師のみの参加となりましたが、終始和やかな表彰式になりました。
これからも適切な治験の実施へのご協力よろしくお願いします。



※写真撮影時のみマスクを外しています。

後列左から四方賢一部長、黒田 智副部長
前列左から和田 淳医師、大橋圭明医師、金澤 右病院長、赤木禎治医師

和田 淳医師

腎臓・糖尿病・内分泌内科



腎臓領域は新薬の開発が低調で治験が最も進んでいない領域として有名でしたが、やっと非

糖尿病腎臓病、糖尿病性腎臓病、IgA腎症などの治験が当院で進行しています。一方糖尿病領域はミトコンドリア糖尿病等、希少疾患を対象として治験が当院で行われています。治験推進部の皆様方のご援助・ご支援のおかげと感謝申し上げます。

大橋圭明医師

呼吸器・アレルギー内科



この度は、このような名誉ある賞をいただくこととなり誠にありがとうございます。

CRCさんをはじめ治験推進部の皆様のきめ細やかなサポートと、治験に参加、協力くださる患者さんにこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

赤木禎治医師

循環器疾患集中治療部



この度はこのような賞を頂き誠にありがとうございます。侵襲性の高い治験を行う

ことは医師として大きな責任を負うことになり、これまでにない不安を持つてのスタートでした。

協力いただく患者さんの声、CRCの皆さんのサポート、検査を実施してくれるスタッフの協力あつての治験だと思っています。心から感謝申し上げます。

治験推進部からのお知らせ

新メンバーの紹介 New Member Introduction

2020年10月より治験薬管理部門に配属されました武田と申します。今までは内服調剤業務やがん化学療法の鑑査・調製業務を行ってきました。まだまだ慣れない事が多く、周りの方々に迷惑をかけてばかりですが、早く戦力になれるように頑張りたいと思います。治験薬の

管理や調剤を通して、治験の適正な実施に貢献できればと思います。よろしくお願いします。



武田 達明

たけだ たつあき

薬剤師/治験薬管理

7月中旬より治験推進部に配属となりました。今までと全く異なる仕事環境のため、戸惑うことも多々ありますが、これも貴重な経験と初心に戻って取り組みたいと思っています。治験に関しては初心者のため、まだまだご迷惑をお掛けすると思いますが、治験に関わる方々や患者の皆様に貢献できるCRCとなるべく頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



内山 慶子

うちやま けいこ

検査技師/CRC

9月末より検体処理の技術員としてお世話になることになりました。4年ぶりの仕事ということもあり緊張していましたが、治験推進部の皆さまのお陰で楽しく仕事に取り組むことができ感謝しております。家ではおしゃべりな4歳児とイヤイヤ期に突入しそうな2歳児の娘2人と日々格闘しています。仕事と育児の両立は初めての挑

戦ですが、ご迷惑をお掛けしないよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



村田 博子

むらた ひろこ

技術職員

開催報告

上級者CRC養成研修

2020年11月14日、15日

■上級者CRC養成研修の開催

今年も臨床研究総合促進事業として、令和2年11月14日(土)、15日(日)に、上級者臨床研究コーディネーター養成研修を開催しました。今回は、【新型コロナウイルス感染症拡大防止のために初めてのWeb開催】であったことと、【主催医療機関によって参加者のレベル分けを行い、当院では経験年数7年以上のベテランを対象】としたところが昨年までと異なる点でした。CRCとして経験豊富な8名が参加されました。

当院の目玉企画であるグループディスカッションでは、1日目は「治験実施機関における危機管理～コロナによって変わるnew normal あなたの施設の今と未来～」、2日目は「コンサルテーション・教育」「組織マネジメント」のテーマで議論しました。刻々と変化する社会情勢に対応しつつ、臨床試験/治験を支援する本質について学びを深める機会になったと思います。



2019年度各科及び医師の同意取得件数(2019年4月～2020年3月)

診療科

順位	診療科名	件数
1	呼吸器・アレルギー内科	52
2	腎臓・糖尿病・内分泌内科	41
3	形成外科	18
4	乳腺・内分泌・呼吸器外科	16
5	血液・腫瘍内科	15
	循環器疾患集中治療部	15
7	消化器内科	12

医師

順位	医師名	所属	件数
1	赤木禎治	循環器疾患集中治療部	15
2	大橋圭明	呼吸器・アレルギー内科	9
3	和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科	8
4	久保寿夫	腫瘍センター	7
	山田 潔	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	7
6	市原英基	呼吸器・アレルギー内科	6
	木股敬裕	形成外科	6

治験手続き電磁化システムDDworks21/TrialSite導入からもうすぐ1年

治験事務部門 佐藤あさ美



CRCあり方会議2020in長崎では電磁化システム導入とその効果について、ポスター発表を行いました。

2020年1月から、DDworks21/Trial Siteによる運用を開始しもう少して1年経過します。3月からはモニターの皆様もシステムに触れていただいておりますが、皆様のご理解、ご協力もあり無事稼働しているものと思います。

ちょうど本システムによる電磁的文書の授受が始まった頃に、昨今のコロナウイルスによる影響を受け出社を制限されたモニター様もいたようで、紙資料のご提出が難しい時期もあったようです。予想していなかった出来事とはいえ「稼働に向けた準備が間に合っただけよかった」と感じていました。当院をご担当いただいているモニターの皆様にとっては、リモートワーク環境下で有効なツールの1つと感じていただければ幸いです。また、日時を指定いただければシステム内に保管されている資料を自身の端末から閲覧いただけるようになっておりますので、R-SDVの実施も容易になったものと思います。

システム導入に伴い、当院治験事務局の作業内容も一部変わった点もありますが、紙資料を受領していた頃と比べると保管作業と書式5の通知・発送作業に要する時間が大幅に減りました。「システム導入後に開始し、既に終了した」という治験はないので、1試験毎の保管すべき紙資料の量をシステム導入前と比較しておりませんが、こちらも大幅に減るものと思います。

今後もよりよいシステム運用を進めていきたいと考えておりますので、ご意見等ございましたらお申し付けください。

〈Trial Site 導入に向けた院内外の説明会〉(2019年12月～2020年3月)



電磁化システムについて真剣に説明を聞く当部メンバー

〈書式5の通知・発送作業〉



昨年8月よりリモートSDVが本格稼働しています

品質管理部門 奥田浩人



CRCあり方会議2020in長崎では、これまでの取り組みについてポスター発表を行いました。

新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言(2020年4月)を受け、治験推進部では早急にウェブ会議を利用したリモートSDVの環境整備に取り組みました。医療情報部の協力のお陰もあり、緊急事態宣言解除後の昨年6月より各治験依頼者にご利用いただいております。当初はウェブ会議の通信環境が不安定であったり、映像が途中で切れたりといった様々なトラブルもありましたが、実施の都度モニタリング担当者の方々にご意見をうかがい、環境改善に取り組みました。およそ2か月の試行期間を経て、部内スタッフの誰もが簡単に実施できる手順に仕上がっており、並行して手順書やマニュアルも整備できました。昨年7月には、実際の運用面やウェブ会議・カメラの操作説明に関する部内スタッフ向けの説明会をウェブ中継で開催しました。昨年8月から本格的に稼働し始めましたが、ひと月あたり30件を超えるときもあり、リモートSDVの必要性についても再認識しているところで

す。現在は1日あたりの受け入れ件数を制限した上でオンサイトSDVを再開し、リモートSDVとのハイブリッドでSDVに対応しています。最後になりましたが、アンケート調査にご協力いただいた皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。



リモートSDV実施についてのWEB説明会を開催しました。





治験推進部 副部長 黒田 智

この度、第20回CRCあり方会議のプログラム委員としてシンポジウム「治験を取り巻くお金の話～日本の医療環境と制度をふまえ、私たちは何をすべきか考えよう!～」の企画、座長および「日本の医療を取り巻く現状と課題」の演者を務めさせていただきました。

日本は主に少子高齢化のため医療制度の財政状況が非常に厳しく、世界から見た場合の医薬品市場の魅力も低下しています。日本国民の皆さんが新薬をいち早く使えるようにするためには日本での治験推進が必要ですが、そのためには治験にかかるコストを抑えて製薬企業のインセンティブを確保する必要があるとのことをお話をしました。また、保険外併用療養費制度の問題点にも触れました。

今回はWebオンデマンド形式のため収録時には聴講者の反応がわかりませんでしたが、公開後に同僚や知り合いから「見たよ」「良かったよ」と言っただけでした。このようなお声が励みになりました。関係者および聴講者の皆さまに御礼申し上げます。



治験事務局 雪吉歌小里

第20回CRCあり方会議では「治験・臨床研究事務局スタッフが望む教育について考える」と題し、シンポジウムに参加させていただきました。シンポジウムでの演題発表という初めての大役で、不安でかなり緊張しておりましたが、新型コロナウィルスの影響により、初めてのWeb開催、演題発表もWeb収録という、初めてづくしの会議となりました。ただ、Web開催になったことで緊張感がやわらぎ、また他の演者の先生方にフォローいただいて、なんとか終えることができました。

治験事務局はCRCと同様に実施医療機関で重要な役割を担っていると思いますが、CRCに比べて人数が少ないため横のつながりが少なく相談できる相手がいなかったり、導入教育、研修がなく、長い間、各事務局個人個人の努力によって業務が進められてきたものと思っています。

今回、初めて会議のシンポジウムで話題となり、事務局向けの教育・研修を整えられようとする動きの第一歩に関わることができ、改めて事務局の業務を考えるととてもいい機会になりました。



参加報告

第20回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 Web開催 2020 in 長崎

The 20th Conference on CRC and
Clinical Trials 2020 in Nagasaki

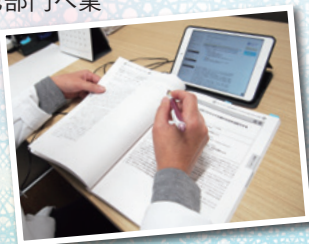
2020年11月3日(火・祝)～16日(月)



CRC 今中泰子

ここ20年の治験環境は激変続きですが、被験者さんとの関わりを大切にすること、科学的・倫理的に信頼性のあるデータを提供することはCRCの原点であり、今後も変わらないことで、

IT技術や治験以外の研究支援や再生医療など新しい分野や指針にはついていかなければと思いました。ただ、森下先生や山本先生もお話されたようにそれら全てをCRCが請け負うのではなく、CRC以外の方が対応した方が実は効率よい業務もあるのではないか、病院全体の最適化が図れるのであれば現場レベルでなく管理職どうしの話合いで他部門へ業務依頼をしたり、企業へ現場の声を届ける努力も必要という点に深く頷きました。WEB参加は自分の都合に合わせて聞けて大変有意義でした。もう少し聴講期間があってもいいかと思います。



CRC 太田麻央

今回のあり方会議はweb開催ということで、子育て中の私にとってとてもありがたく、空いた時間にシンポジウムやポスターを見ることができました。

その中でもとても印象に残ったのが、“Coordinationをする

ために必要なこと”のシンポジウムです。CRCをする前に病棟で働いていた時には正直、治験の患者さんはなるべく担当したくないなあと思っていました。その気持ちの心理を掘り下げると、患者さんに正しく治験を実施しなくてはいけない…ミスは許されない…だからこそ発生するプレッシャーを感じていたのです。このプレッシャーを和らげるには「対話」が必要であると言われていて、その通りだなあと感じました。CRCとして多職種と連携していく上で、お互いの業務を理解しきちんと言葉で伝えて、何か不安なことがあればいつでも連絡が取れる事を伝えることの大切さに改めて気づきました。そしてそのことが、患者さんの安心にも繋がるということ意識してこれからも日々努力し続けたいと思います。

最優秀演題賞



CRC 宮本理史

今回、あり方会議
2020 in 長崎において
「がんゲノム医療におけるCRCの取
組みと役割」のeポスター発表を行
いました。私は治験推進部において
CRC/薬剤師として治験業務を行
いつつ、がんゲノム医療にも関わって

います。がんゲノム医療と治験には密接な関係があります。例えば遺伝子パネル検査を行った患者において治療に結び付く遺伝子変異(druggable変異)が見つかった場合、その治療の窓口としては“保険診療”、“自費診療”、“治験や先進医療”、“一部の特定臨床研究”が選択肢として挙がってきます。しかしながら保険診療や自費診療は基本的に候補とならず、やはり世の中で適応にないものが候補となってくるため治験等が選択肢として多く挙がってきます。その中で私は候補となった治験の事前スクリーニングや治験の進捗状況の確認をHP上などで確認しています。今後もCRC/薬剤師としてがんゲノム医療により貢献できればと考えています。本発表はあり方会議2020 in 長崎で最優秀演題賞を受賞致しました。本発表内容作成に関わって頂きました先生方、そしてあり方会議大会スタッフの皆様に感謝申し上げます。



治験薬管理 晴田 佑介

この度、「有事における
治験薬配送の手順構築と
課題」という演題で発表さ
せて頂きました。私は2月よ
り治験推進部に異動にな
ったのですが、業務に慣れ
ようと日々過ごしていたと

ころ、コロナ禍に巻き込まれ、特殊な対応を強いられる状況となりました。緊急事態でも対応できるように、手順書を作成することの重要性をまさに体感した日々でした。

中学の修学旅行以来の長崎での会議参加を楽しみにしていたのですが、人生初のWeb開催の学会となってしまいました。ポスターの印刷や移動がなくなったことは負担減につながりました。演題閲覧期間が長く業務のちょっとした空き時間にポスター閲覧ができ、通常の学会よりも自分には合っていたかもしれません。軍艦島クルーズに参加することができなかったことだけが非常に心残りですが、コロナ禍における各施設の取り組みについて情報共有ができ、治験に関する様々な知識を得ることができ、大変有意義でした。

今年で第20回を迎える「CRCと臨床試験のあり方を考える会議」はCOVID-19の影響を考慮してWEBでの開催となりました。

当院からはシンポジウムでの演題発表を2名、ポスター発表を4名が行いました。

11月3日(火・祝)～16日(月)まで2週間という長い期間オンデマンド形式で視聴できたため、普段出張に行けないCRCや事務職員が参加できたこと、タイムリーな話題を盛り込んだ座談会の企画開催など「新しいCRCあり方会議」はとても有意義でした。



CRC 前林尚子

普段時短勤務をしているため、時間外の研修や勉強会にはなかなか参加ができませんでした。しかし、今回はWEB開催ということで勤務時間内での参加が可能であった

こと、また自分の興味のある議題をゆっくり視聴することもできたことで、とても有意義な時間になりました。今回、患者・市民参画がテーマになっているシンポジウムがあり、日本国内でも患者や家族の意見を参考に研究を進めることを目指す動きが広まりつつあることを学びました。そして患者さんや家族の思いや意見を聞くことのできる時間を取っているか、また患者さんや家族が理解できるように答えることができたかなど自分の行動を振り返ることもできました。今回学んだことを明日からの業務に生かしていきたいと思います。



CRC 原山 愛

「Coordinationをするために必要なこと」を聴講して学んだのは、コミュニケーションが大事!ということです。そのためには、知識が欠かせません。「CRCは診療報酬請求の内容を理解している」、「検査について知らなすぎる」、「CRCは専門性が高く熟知してい

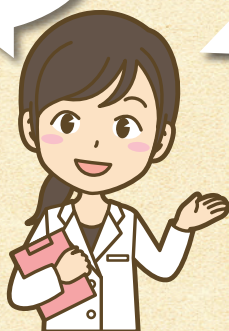
る」という言葉をきいて、プレッシャーを感じました。費用の事、検査の事、英語…。課題は山積みですが、できることから勉強していこうと思います。

また、「病棟看護師もCRCに遠慮している」と聞いて、はっと気づきました。現場の看護師の方が忙しいイメージがありましたが、言われてみると、実際は皆が忙しいので、その中で上手にコミュニケーションをとる必要があるのだと思いました。「アポイントをとる」、「今いいですか?」だけでなく、「～について、今いいですか?」と聞いてから話す、この2つはすぐに実践したいと思います。いつもいろいろと助けてくれる周りの方々に感謝し、しっかりコミュニケーションしていきたいです。



LEARN!

今さら聞けない

**治験にまつわる
あんなこと、こんなこと。**私がお答え
します!

脇坂真弓CRC

治験参加中のグレープフルーツ、なんでダメ??

治験参加中はグレープフルーツの摂取制限があることをご存じでしょうか?
これは、グレープフルーツに含まれるフラノクマリンという成分が、薬を代謝する酵素の働きを阻害することにより、薬の作用が強くなってしまふことがあるためです。Ca拮抗薬等もグレープフルーツとの飲み合わせに注意が必要な薬剤として有名ですね。では他の柑橘類ではどうかというと、グレープフルーツと同様に注意が必要なものがある一方、温州みかんやオレンジなどは薬との相互作用リスクは低いと言われています。みかんが恋しい季節です。正しく理解し、美味しい食事を摂りましょう!

**教えて!
まど香先生!**

斎藤まど香CRC

**ジェネリック医薬品
(後発医薬品)の
開発に治験は必要なの??**

先発品の開発には「毒性試験や薬理作用の試験」や患者さんにご協力いただく「治験」が実施されますが、ジェネリック医薬品の場合、一部の試験が省略されます。そのため先発品と比べて開発期間が短く、開発費用が低く抑えられています。

経口の医薬品では、製剤化されたジェネリック医薬品が先発品と同じような血中濃度推移を示すのかを確認する生物学的同等性試験が行われます。この試験で先発品と同等であると確認されたジェネリック医薬品は、有効性や安全性も先発品と同等であると判断されます。このようにジェネリック医薬品の開発においては、先発品との比較試験が行われています。

ジェネリック医薬品は錠剤を小さく飲みやすくしたり、苦味を抑える工夫がされていることもあります。どのような工夫がされているのか、ジェネリック医薬品を開発している会社のホームページを見てもいいですね。

IRBで承認報告された医薬品

2020年4月～2020年11月



一般名	商品名	適応(新規取得または追加)	治験実施診療科
カボザンチニブ	カボメティクス	根治切除不能又は転移性の腎細胞癌	泌尿器科
デュピルマブ	デュピクセント	○既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎 ○気管支喘息(既存治療によっても喘息症状をコントロールできない重症又は難治の患者に限る) ○鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎(既存治療で効果不十分な患者に限る)	耳鼻咽喉科
チオテパ	リサイオ	疾患における自家造血幹細胞移植の前治療 悪性リンパ腫、小児悪性固形腫瘍	血液・腫瘍内科
カプマチニブ	タブレクタ	MET 遺伝子エクソン14スキッピング変異陽性の切除不能進行・再発の非小細胞肺癌	呼吸器・アレルギー内科
サクビルバルサルタン	エンレスト	慢性心不全	循環器内科
ラコサミド	ビムパット	一時的に経口投与ができない患者における、下記の治療に対するラコサミド経口製剤の代替療法 てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)	小児神経科
プロルシズマブ	ベオビュ硝子体内注射用	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性	眼科
フィルゴチニブ	ジセラカ	既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)	腎臓・糖尿病・内分泌内科
ボスチニブ	ボシュリフ	慢性骨髄性白血病	血液・腫瘍内科
ランジオロール	オノアクト	敗血症に伴う下記の頻脈性不整脈:心房細動、心房粗動、洞性頻脈	麻酔科蘇生科
セツキシマブサロカン	アキラルックス	切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌	耳鼻咽喉科
ミダゾラム	プロラム	てんかん重積状態	小児神経科

治験推進部

健康推進部の活動

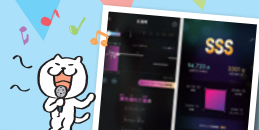
VOL.7

心身リラックス! 趣味こそ私の健康法!
私今これにハマってます!

COVID-19の影響で業務や日常生活に制限がかかり、日々ストレスが溜まりつつあります。

でもそんなストレスに負けず、心身がリラックスできる趣味を満喫しているメンバーの日常をご紹介します。

普段の業務中には見えない一面を教えてくださいました!



休日に子供たちとの散歩にハマっています。

最近、休日に子供たちとの散歩(ウォーキング)にハマっています。なかなか日常では子供たちともコミュニケーションを取る時間がない中で、他愛もない会話ですが、話をする唯一の時間としてとても大切な時間になっています。また片道30分程度で行ける範囲ですが、散歩ついでに色々なパン屋さん巡りも楽しみの一つです。出来立てのパンを買って帰ることで奥さんにも喜んでもらえ、とても有意義な時間になっています(笑)。目的を持たない貴重な時間(色々副次的なものもありますが)、そんな散歩は、今の僕にとっては身体だけでなく心の健康を保つ重要なツールになっています。皆さんも少しの時間、散歩どうですか。



消化管外科 野間和広

スマホアプリで自宅カラオケにハマっています。

週末には街に飲みに出かけて、酔った勢いで気持ちよく歌を歌うのが好きな私ですが、今の世の状況では許されることなく、Stay Homeの日が続いております。そんなあるとき子供に教えてもらったのが、スマホでも使えるカラオケアプリです。自宅でお手軽にカラオケ気分が味わえ、子供たちも大喜びで最近のヒットソングにチャレンジしております。気持ちよく声を出すというのはいいい気分転換になりますし、親子のコミュニケーション促進にも役立っています。子守をしながら家事をしないといけない主婦、主夫の方にとっても、歌好きな子供であれば子供をくぎ付けにすることができ家事もはかどります。カラオケ好きだけど我慢が続いている方、一度ぜひお試しください!



消化管外科 田邊俊介

ラジコンにハマっています!

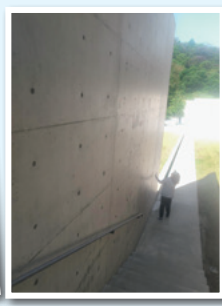
みなさんも何かにのめり込むと、最初は気付かなかった奥深さを体験したことがあると思います。ラジコンも例外ではなく、おっさんたちがただ車を走らせているのではなく、実は奥深いものがあります。各種レースでは、レギュレーションと呼ばれるレースのルールがあります。その範囲であればどのようにセッティングしても問題ありませんが、セッティングの幅は無限大で、1日を通して行われる予選・決勝で速く走らせようと思うと刻々と変化する路面温度に対応したセッティングをしていく必要があります。遊びを通して、社会からの期待に応え、仕事を円滑に進めるためには、どの場所で自身の特性を最大限に発揮し、社会のパートとなれば社会も自身も幸せなのかを考えながら、暑い日も寒い日も外で趣味に興じています。



治験薬管理部門 河崎陽一

ジョギングが週課です。

2018年のおかやまマラソン参加を目的にトレーニングを初めて以来、ジョギングが週課です。年齢を重ねて、健康のためにできることがないかと思っていた矢先におかやまマラソンの開催と、マラソン人気の高まりで、スポーツには全く縁がなかったのですが、ランニングを始めるいいきっかけになりました。残念ながら今年のおかやまマラソンはコロナウイルスの影響で開催がなくなってしまいましたが、先日「勝手に直島マラソン」と題して直島一周、また「勝手に児島マラソン」として児島駅から旧下津井駅まで「風の道」を走ってきました。直島は瀬戸内国際芸術祭の開催場所で、アートの島として有名で、海沿いの道も気持ちいいですし、途中散在する美術館に立ち寄りながら楽しむことができました。また児島「風の道」は、旧下津井電鉄の軌道跡を走ることができるのですが、緑に囲まれた道や、左に海、右に山を眺めながらのジョギングは、最高の一言でした。



治験事務局 雪吉歌小里

オフショアフィッシングを紹介します。

ルアー(ジグやタイラバ)などを使った私の趣味のオフショアフィッシングを紹介します。

ジグを海底まで落としては、竿を使ってしゃくって動かす動作を繰り返す青物(鯛)や太刀魚釣り、タイラバを海底まで落としては、一定速度で巻き上げては落とすマダイ釣り、テンヤにエビをつけて海底まで落としては、エビが跳ねるようにしゃくってマダイ釣り(マゴチやアコウ等も釣れる)を瀬戸内海で楽しんでいます。

この釣りの醍醐味は、何といっても大物を釣り上げた時に他の釣行者に自慢顔で偉そうにできることです(笑)。そうではなくて、釣った魚をさばいて新鮮な魚を美味しく食べられることでしょうか。さばいてすぐではなく冷蔵庫に数日ねかせておく旨味がでるので、それから食べるのも美味しいですよ。時には大海原の中で非日常を過ごしてみるのはいかがですか。



CRC 東影明人



四方部長の 日々是好日

ひびこれこうじつ

明けましておめでとうございます。

皆様はどんな新年をお迎えでしょうか？昨年は、学会や委員会がWEB開催となり、同窓会も中止になってしまったので、普段顔を合わせる人達に会えないまま一年が過ぎてしまいました。気がつけば、自宅の前の川には今年もたくさんの水鳥が海を渡って戻ってきています。水面に浮かぶ水鳥をよく見ると、多くはカップルで仲良く泳いでいて、眺めていると心が癒されます。

昨年末の生命保険会社のアンケート結果では、約20%の人が最近夫婦仲が良くなったと答え、80%の人が今夫婦円満だと答えたそうです。離婚もかなり減っているようですので、久しぶりの明るい話題ではないでしょうか。

私の趣味は魚釣りですが、昨年は息子達が帰省できなかったせいもあって、全く行くことができず残念でし

た。ところで、釣りは健康に良いのでしょうか？同じ釣りでも、ルアーやジギングをする人はかなり腕を動かすので良い運動になると思いますが、私のように魚が餌に食いつくのを待っている釣りだと、それほど体力は使わない気がします。それでも、磯や浜辺から海を眺めたり、船に乗って海の上にいると爽快な気分になるので、私にとっては心の健康に大いに役立っています。今年は是非また釣りに行きたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症の診療に携わっておられる方々には、心から感謝いたします。

最後になりましたが、今年が皆様にとって良い年になることを願っています。



~Time of Healing~ Vol.2 写真と私

IRB 外部委員 古野 勝志



私こと、昭和46年薬剤師として病院へ勤務するようになりました。ある日、内科医師の学術講演会を拝聴した時、先生は講演の合間に美しい風景写真を投影されました。その美しさに感動し、講演終了後も余韻が残りました。このことがきっかけで、私の写真の趣味が始まりました。しかし、なかなか美しい写真が撮れません。地元の写真クラブにも入り指導を受けました。そうした中、渾身の一枚が撮れ、意気込んで講師に講評を求めました。講師曰く、美しい写真ですが、一つのお皿にフランス料理と日本料理がのっているようですと言われました。写真は引き算、主役と脇役に注目し不要なものは入れないようにと指導を受けました。さらに研鑽を積みフォトコンテストに挑戦し入賞・入選をめざして撮影を続けたいと思っています。定年退職後10年以上が過ぎましたが、心身が活性化するような写真撮影を楽しみたいと思っています。



INFORMATION

第20回 市民公開講座（2021年2月開催予定）は中止となりました。



ホームページで今までの治験推進部レターをご覧ください。

岡山大学病院治験推進部トップ

→ 当部について

→ 推進部レター



発行 元／新医療研究開発センター治験推進部 治験事務部門 〒700-8558 岡山市北区鹿田町2丁目5-1
発行年月日／令和3年1月15日 発行責任者／四方賢一・黒田 智 担当者／大江祐子・國富奈奈 撮影／藤澤麗子
治験推進部／TEL:086-235-7991(内線7991) FAX:086-235-7795 <https://dcr.hospital.okayama-u.ac.jp/>
契約・事務全般／TEL:内線7534 薬剤部 治験管理室／TEL:内線7792